



2023年9月期 決算説明

株式会社 丸山製作所

代表取締役社長 内山剛治

次の100年を創る
-All for the Future-



目次

1. 2023年9月期 業績概要	P. 2
2. 2024年9月期 業績予想	P.14
3. 第8次中期経営計画	P.19
4. 参考資料 会社概要 財務諸表 等	P.28



1 2023年9月期 業績概要

【2022年10月1日～2023年9月30日】

2 2024年9月期 業績予想

【2023年10月1日～2024年9月30日】

3 第8次中期経営計画

【2023年9月期～2027年9月期】

4 参考資料

会社概要 財務諸表 等

2023年9月期 業績概要

単位：百万円	2022年9月期 実績			2023年9月期 通期予想	2023年9月期 実績			
	金額	売上高 比率		金額	金額	前年同期比		売上高 比率
						増減額	増減率	
売上高	39,639	－		40,000	41,426	＋ 1,787	＋ 4.5%	－
営業利益	1,521	3.8%		1,800	1,732	＋ 211	＋ 13.9%	4.2%
経常利益	1,635	4.1%		1,750	1,726	＋ 91	＋ 5.6%	4.2%
当期純利益	1,158	2.9%		1,200	1,218	＋ 60	＋ 5.2%	2.9%
為替レート 米ドル	122円			135円	150円			
為替レート ユーロ	135円			140円	158円			

経済

- ・ 新型コロナウイルス感染対策の緩和や各種政策の効果により緩やかな回復
- ・ 地政学的緊張の高まりの長期化による資源やエネルギー価格の高騰
- ・ インフレ警戒に伴う各国の金融引き締めによる急激な為替変動

変動要因

- | | | | |
|------|-----------------------------|-----------------|-----------|
| 【日本】 | ・ アグリ向け大型機械、ホームセンター向け刈払機の増加 | ・ 工業用洗浄機の増加 | ・ 消防機械の増加 |
| 【海外】 | ・ 欧州、中南米向け刈払機の減少 | ・ 北米向け工業用ポンプの増加 | |

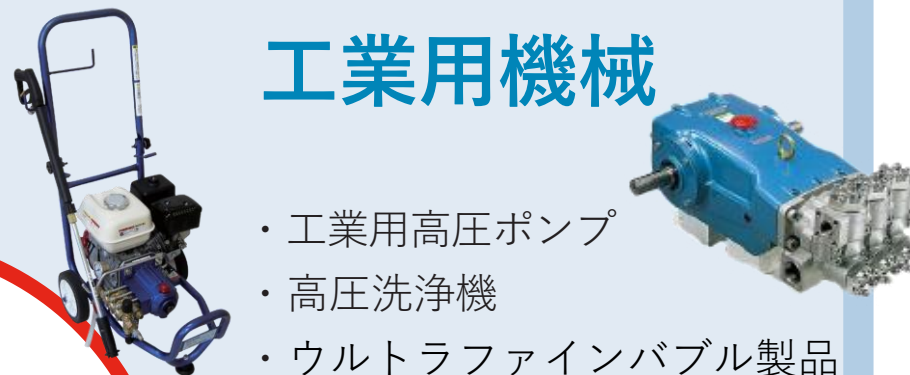
農林業用機械

- ・ 動力噴霧機
- ・ 動力散布機
- ・ 大型防除機
- ・ 刈払機
- ・ チェンソー
- ・ その他



工業用機械

- ・ 工業用高圧ポンプ
- ・ 高圧洗浄機
- ・ ウルトラファインバブル製品



その他の機械

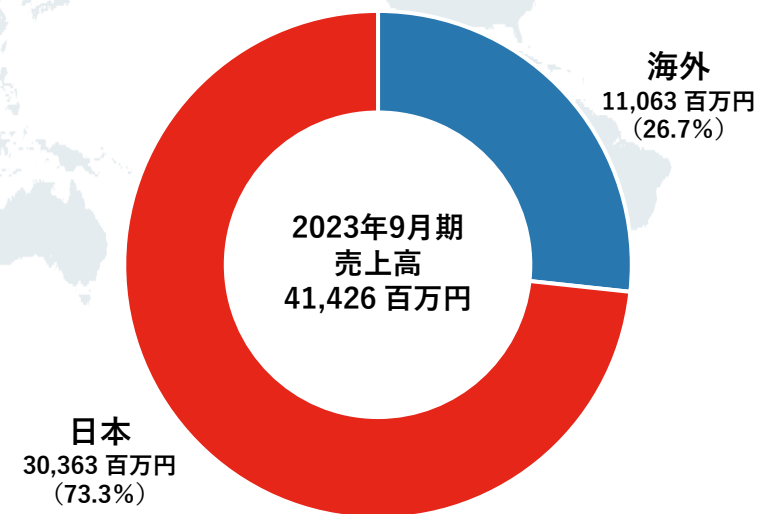
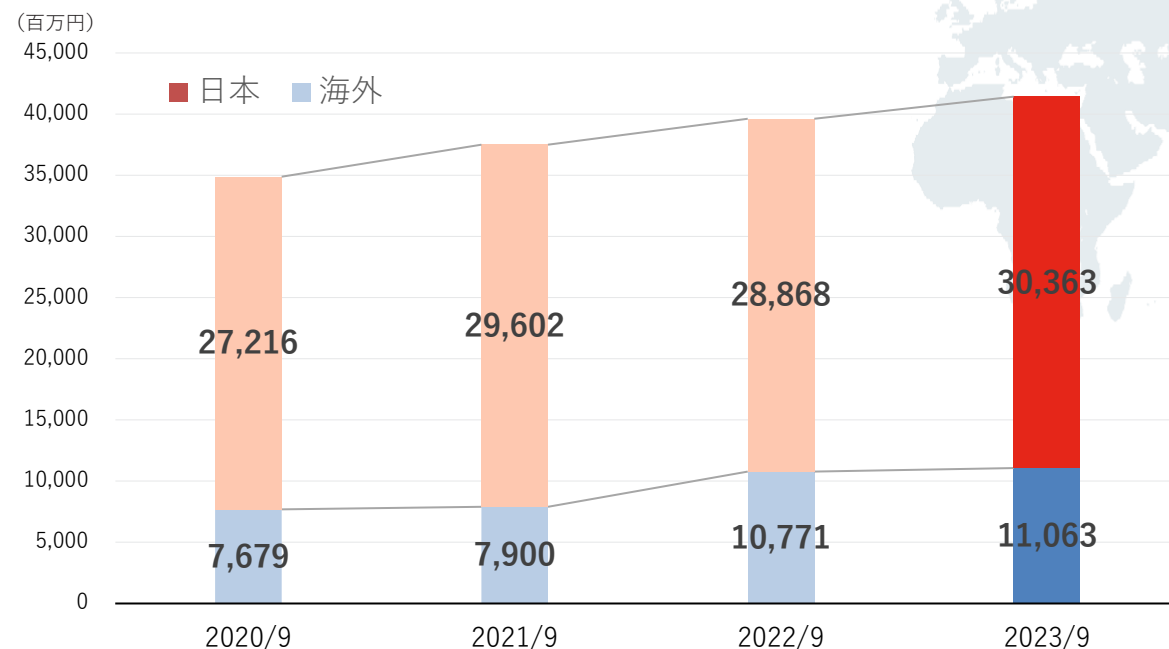
- ・ 消火器
- ・ 防災関連機器
- ・ 環境衛生用機械
- ・ その他



不動産賃貸他

- ・ 不動産賃貸
- ・ 売電事業

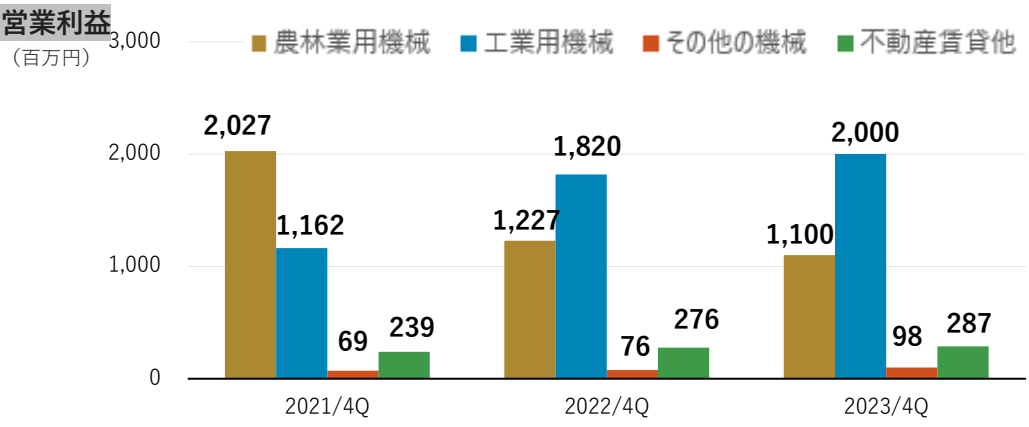
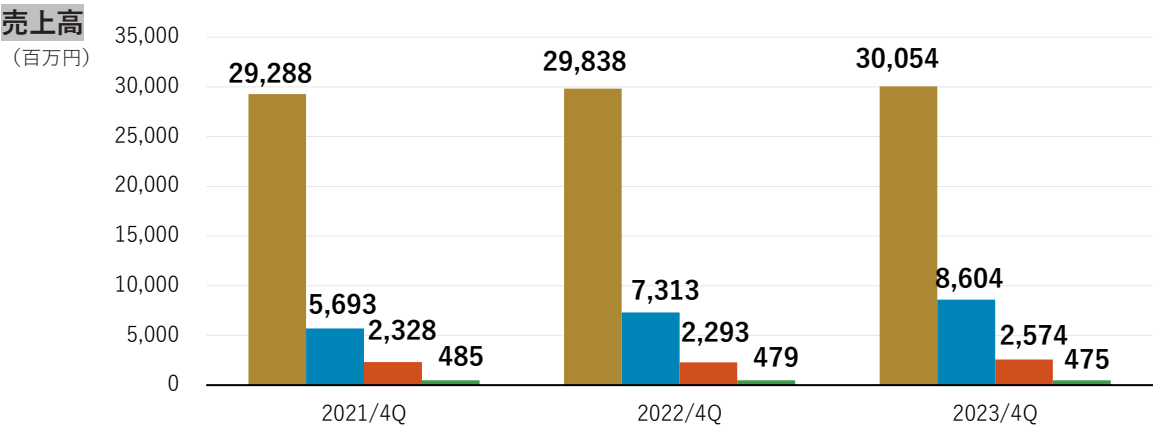
海外の売上高の状況



単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
海外	10,771	27.2%	11,063	+ 292	+ 2.7%	26.7%
日本	28,868	72.8%	30,363	+ 1,495	+ 5.1%	73.3%

セグメント別 業績概要

単位：百万円	2022年9月期 実績			2023年9月期 実績							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	前年同期比		売上高 構成比	営業 利益	前年同期比		営業利益 構成比
					増減額	増減率			増減額	増減率	
農林業用機械	29,838	74.7%	1,227	30,054	+ 216	0.7%	72.1%	1,100	△ 127	△ 10.3%	28.2%
工業用機械	7,313	18.3%	1,820	8,604	+ 1,291	17.6%	20.6%	2,000	+ 180	9.9%	51.1%
その他の機械	2,293	5.8%	76	2,574	+ 281	12.3%	6.2%	98	+ 22	29.6%	9.2%
不動産賃貸他	479	1.2%	276	475	△ 4	△ 0.9%	1.1%	287	+ 11	3.9%	11.5%
調整額 (セグメント間取引)	△ 285	—	△1,878	△ 281	+ 4	—	—	△ 1,753	+ 125	—	—
合計 (うち海外)	39,639 (10,771)	100.0% (27.2%)	1,521	41,426 (11,063)	+ 1,788 (+ 292)	2.5% (+ 2.7%)	100.0% (26.7%)	1,732	+ 211	13.9%	100.0%

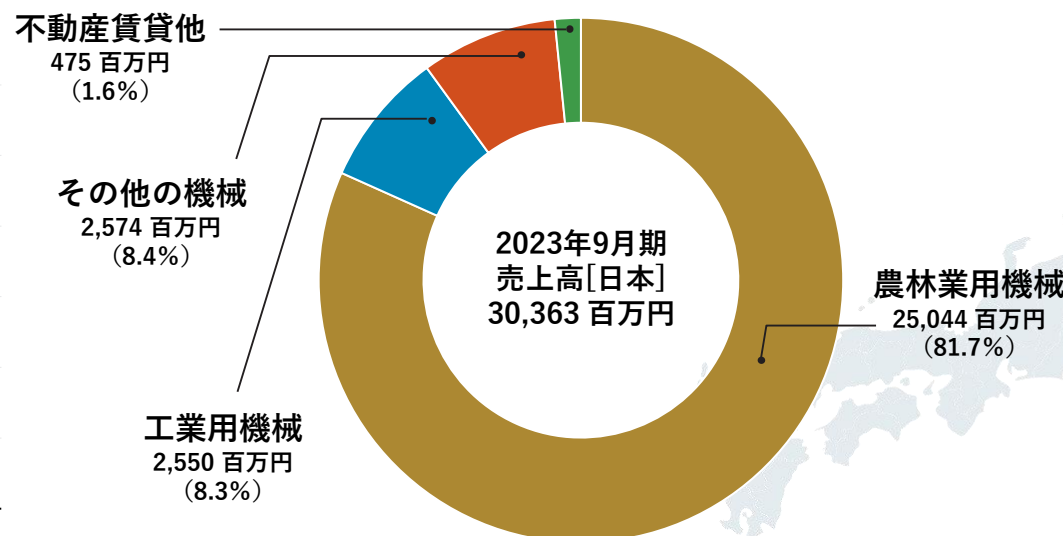
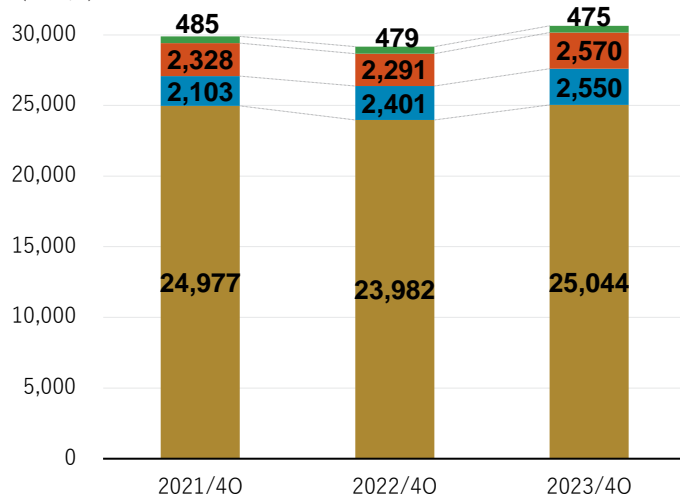


セグメント別 売上高 [日本]

農林業用機械：大型機械、ホームセンター流通における刈払機の増加
工業用機械：洗浄機の増加

売上高

(百万円)



単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	23,982	82.3%	25,044	+ 1,062	+ 4.4%	81.7%
工業用機械	2,401	8.2%	2,550	+ 149	+ 6.2%	8.3%
その他の機械	2,291	7.9%	2,574	+ 286	+ 12.4%	8.4%
不動産賃貸他	479	1.6%	475	△ 4	△ 0.8%	1.6%

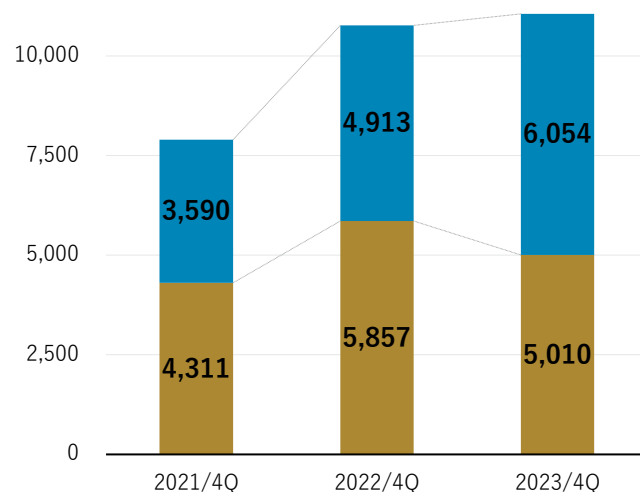
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

セグメント別 売上高 [海外]

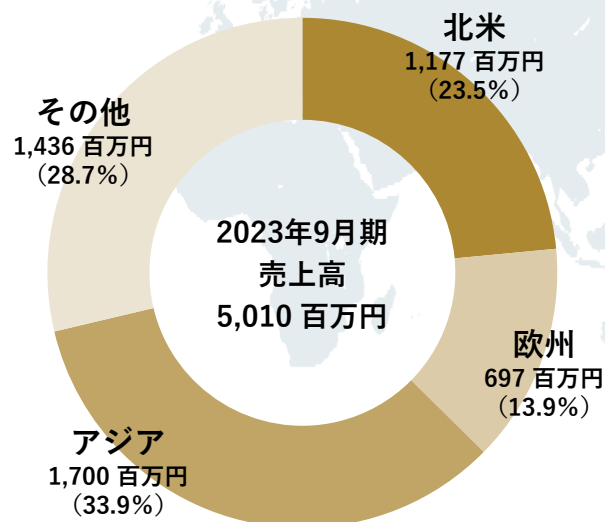
農林業用機械：欧州向け刈払機の減少
工業用機械：北米向けの工業用ポンプの増加

売上高

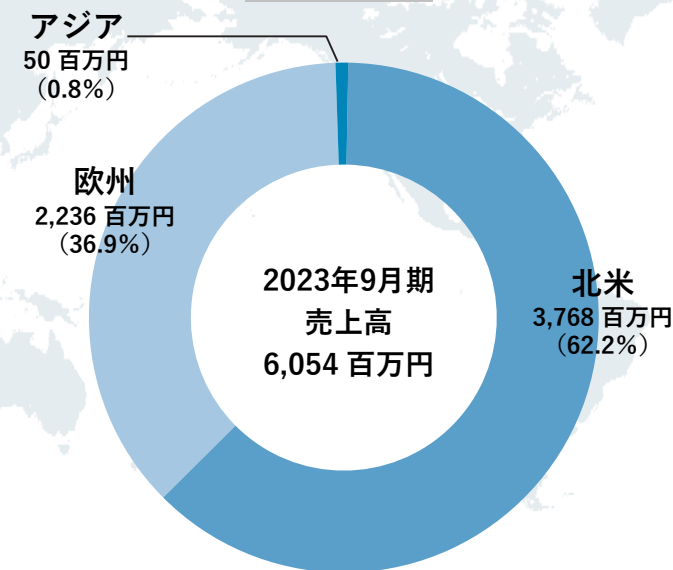
(百万円)



農林業用機械



工業用機械



単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	5,857	54.4%	5,010	△ 577	△ 10.3%	45.3%
工業用機械	4,913	45.6%	6,054	+ 1,141	+ 23.2%	54.7%

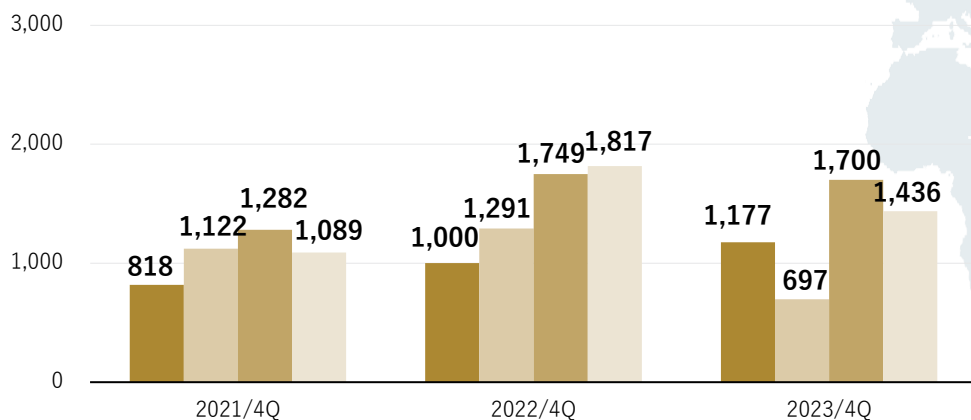
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

セグメント別 売上高 [海外地域別]

売上高 [農林業用機械 地域別]

(百万円)

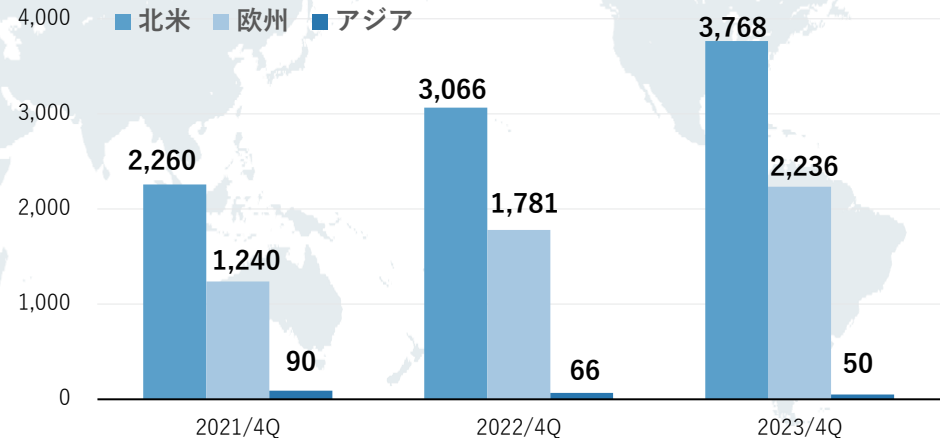
■ 北米 ■ 欧州 ■ アジア ■ その他



売上高 [工業用機械 地域別]

(百万円)

■ 北米 ■ 欧州 ■ アジア

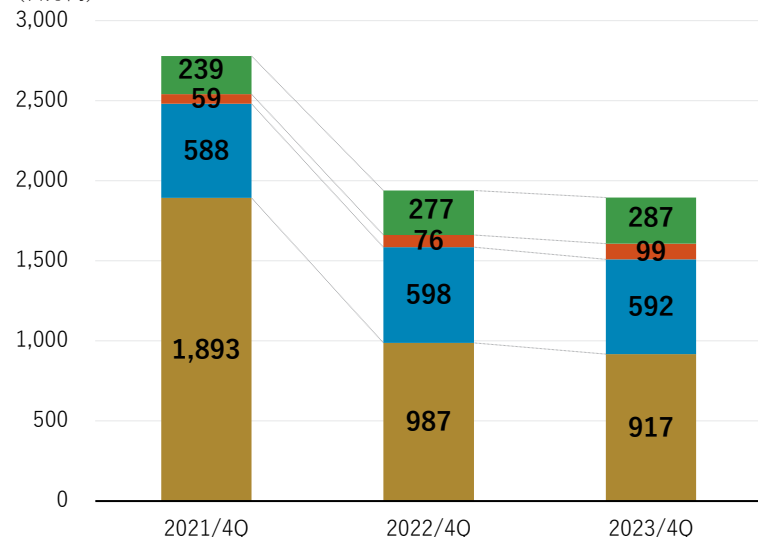


単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	5,857	54.4%	5,010	△ 847	△ 14.5%	45.3%
北米	1,000	9.3%	1,177	+ 177	+ 17.7%	10.6%
欧州	1,291	12.0%	697	△ 594	△ 46.0%	6.3%
アジア	1,749	16.2%	1,700	△ 49	△ 2.8%	15.4%
その他	1,817	16.9%	1,436	△ 381	△ 21.0%	13.0%
工業用機械	4,913	45.6%	6,054	+ 1,141	+ 23.2%	54.7%
北米	3,066	28.5%	3,768	+ 702	+ 22.9%	34.1%
欧州	1,781	16.5%	2,236	+ 455	+ 25.6%	20.2%
アジア	66	0.6%	50	△ 17	△ 25.8%	0.4%

セグメント別 営業利益 [日本]

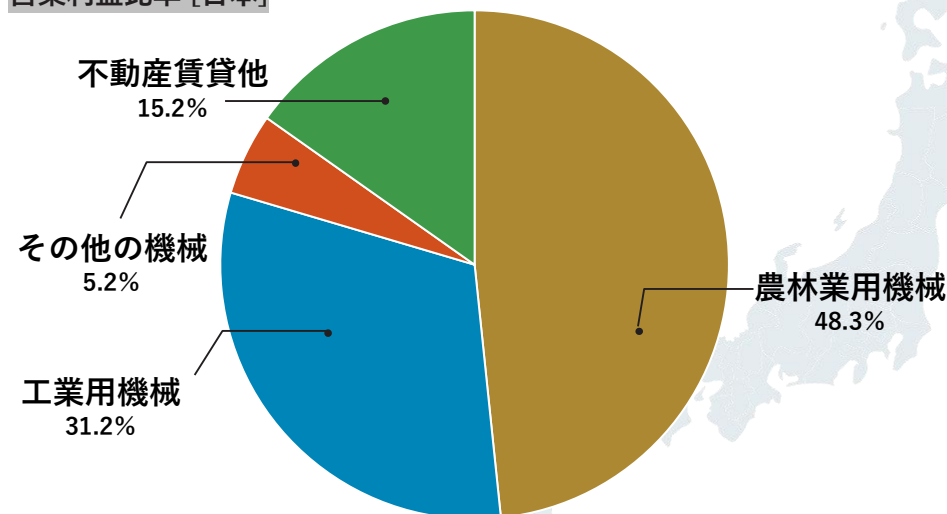
営業利益

(百万円)



農林業用機械：原材料高騰及び資材調達の混乱に伴う生産効率の悪化

営業利益比率 [日本]



単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 実績			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比		営業利益 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	987	50.9%	917	△ 70	△ 7.1%	48.3%
工業用機械	598	30.9%	592	△ 6	△ 1.0%	31.2%
その他の機械	76	3.9%	99	+ 23	+ 36.3%	5.2%
不動産賃貸他	277	14.3%	287	+ 10	+ 3.6%	15.2%

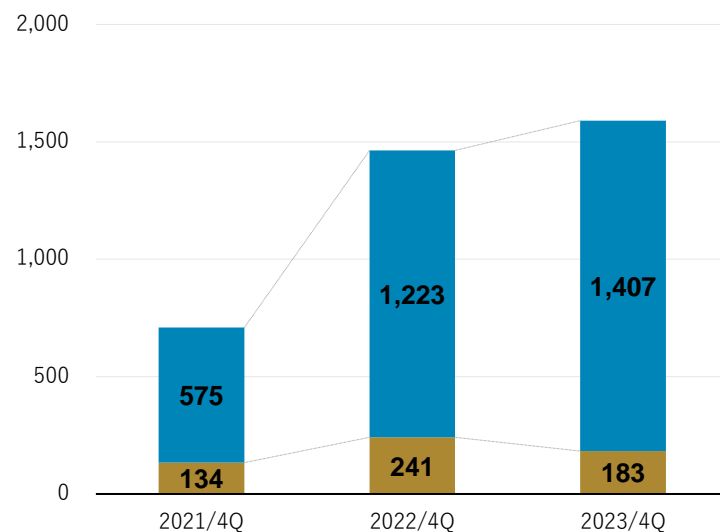
※営業利益は全社費用等調整前の金額であります。

セグメント別 営業利益 [海外]

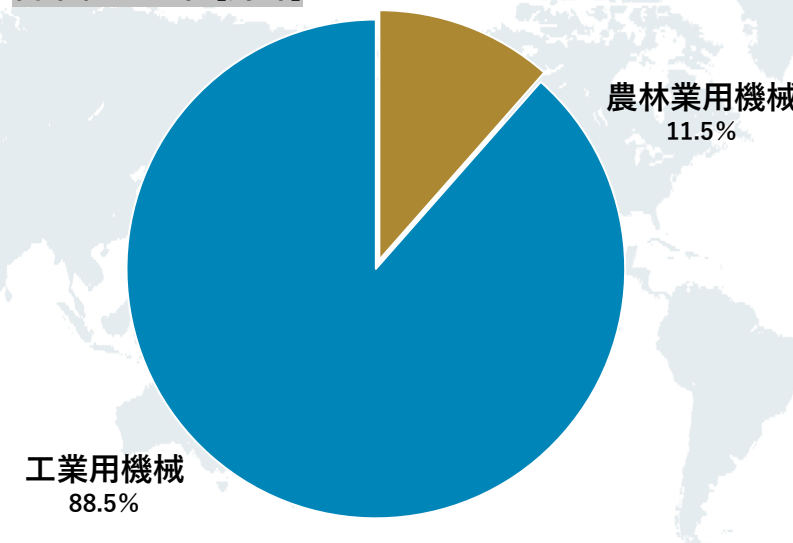
工業用機械：製商品の値上げ効果により営業利益改善

営業利益

(百万円)



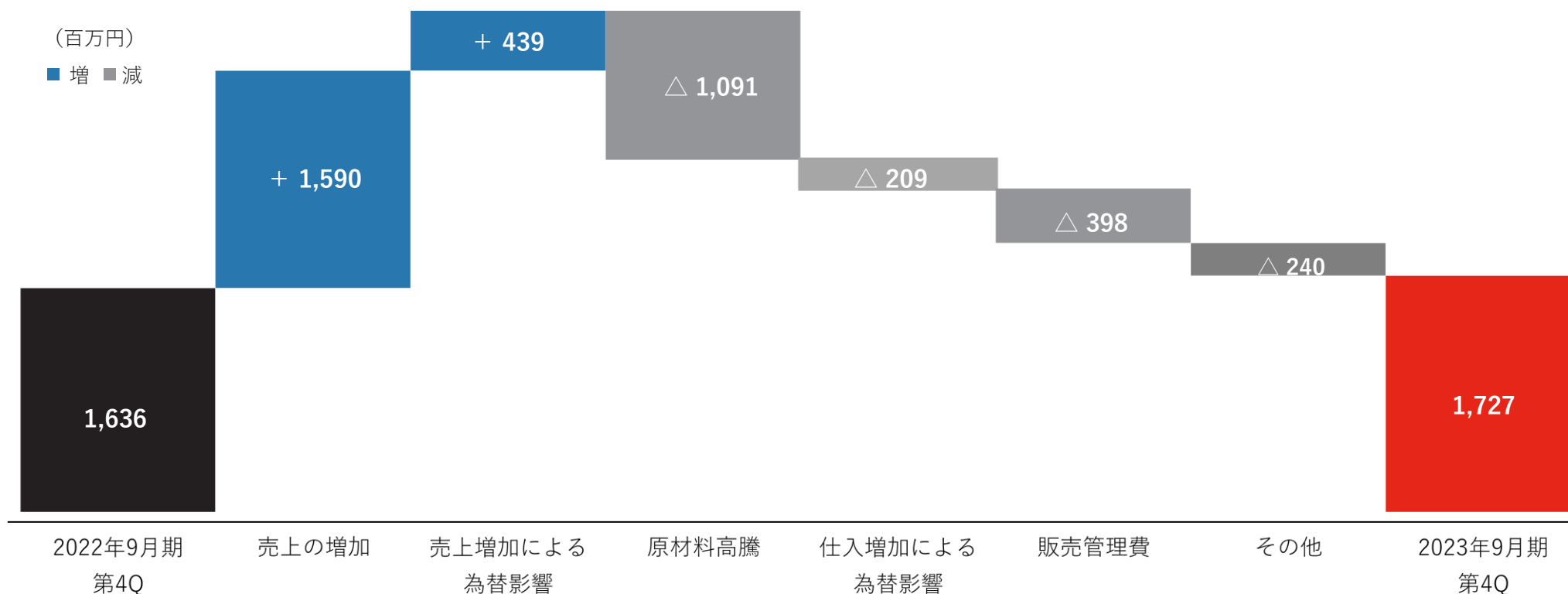
営業利益比率 [海外]



単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 実績			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比		営業利益 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	241	16.5%	183	△ 58	△ 24.1%	11.5%
工業用機械	1,223	83.5%	1,407	+ 184	+ 15.4%	88.5%

※営業利益は全社費用等調整前の金額であります。

2023年9月期 増減益要因分析 [経常利益]



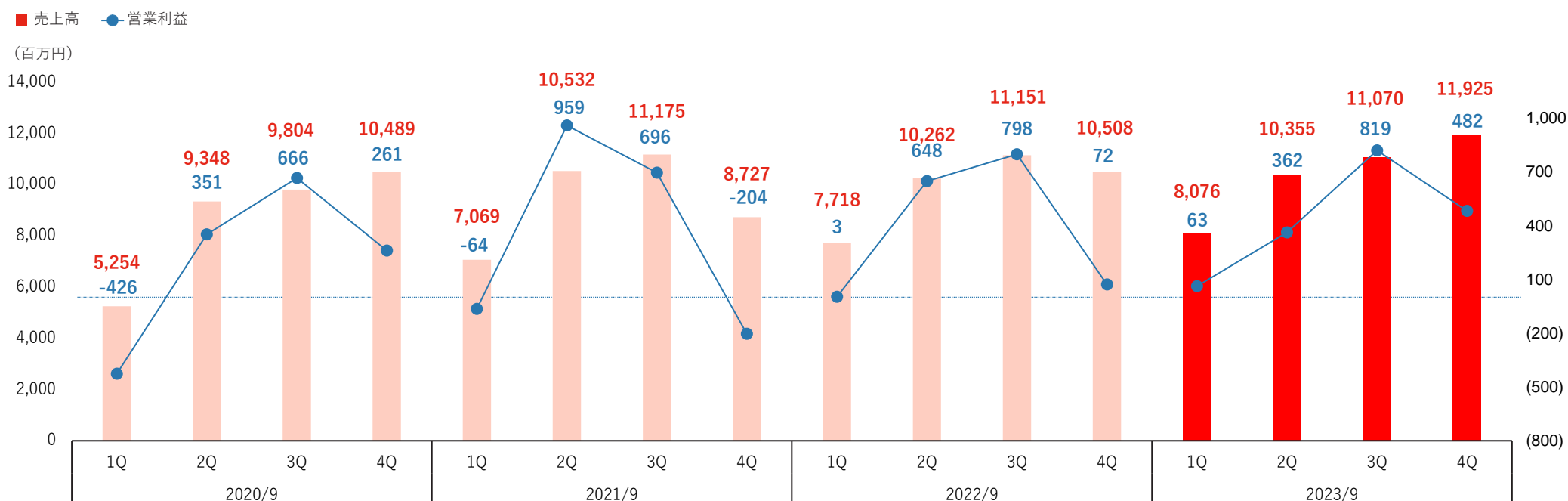
【＋】 売上の増加（+1,590）、売上増加に伴う為替影響（+439）が主な要因

【－】 原材料高騰等の影響（△ 1,091）、仕入増加に伴う為替影響（△ 209）、
広告宣伝等の営業活動の増加（△ 161）が主な要因

売上高・営業利益の推移 [四半期ベース]

売上高は 41,426 百万円（前年同期比 4.5%増）
営業利益は 1,732 百万円（前年同期比 13.9%増）

※国内の農業用機械の需要期が3月から7月であるため、売上・利益ともに第1四半期は他の期に比べ少ない傾向にあります。





1 2023年9月期 業績概要
【2022年10月1日～2023年9月30日】

2 2024年9月期 業績予想
【2023年10月1日～2024年9月30日】

3 第8次中期経営計画
【2023年9月期～2027年9月期】

4 参考資料
会社概要 財務諸表 等

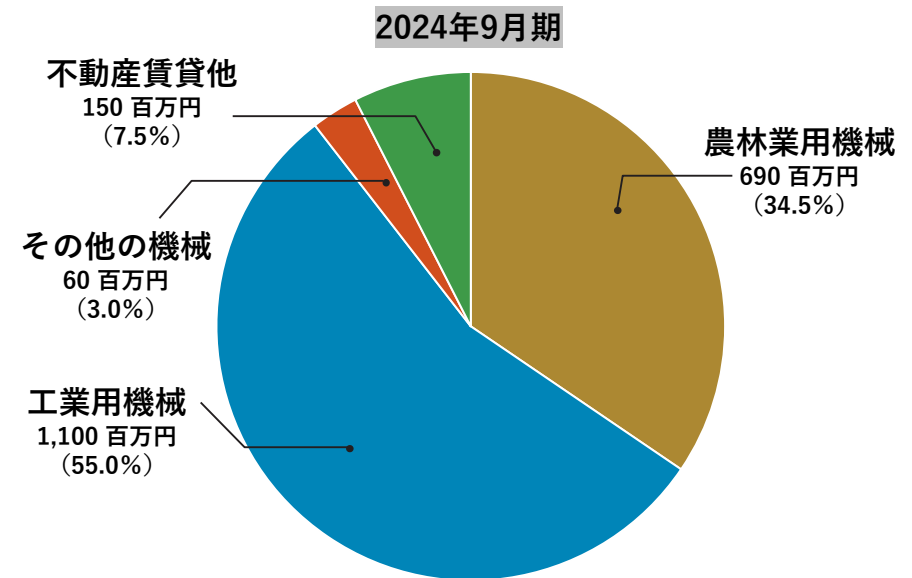
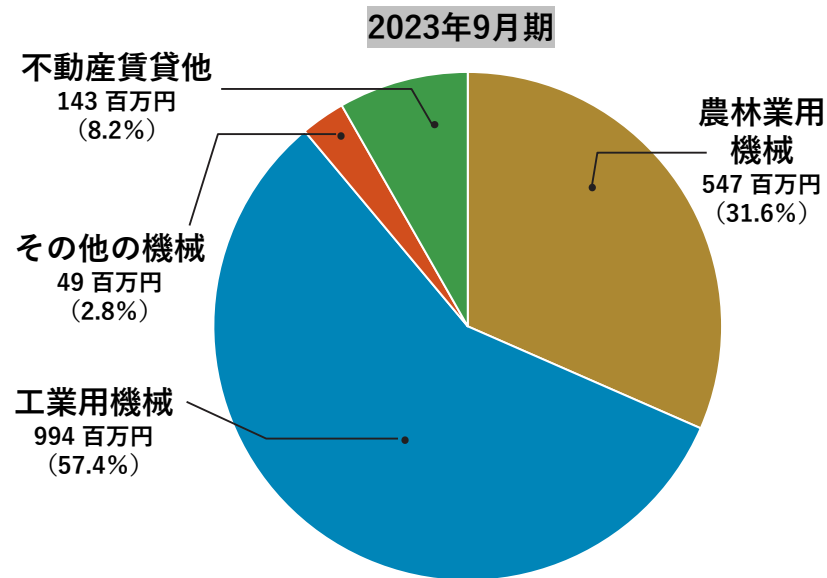
2024年9月期 業績予想

単位：百万円	2023年9月期 実績		2024年9月期 通期予想				2024年9月期 第2四半期予想	
	金額	売上高 比率	金額	前年同期比		売上高 比率	金額	前年同期比 増減率
				増減額	増減率			
売上高	41,426	－	42,000	+ 574	+ 1.4%	－	19,000	+ 3.1%
営業利益	1,732	4.2%	2,000	+ 268	+ 15.5%	4.2%	600	+ 41.2%
経常利益	1,726	4.2%	2,000	+ 274	+ 15.9%	4.2%	600	+ 41.5%
当期純利益	1,218	2.9%	1,400	+ 182	+ 14.9%	3.0%	400	+ 5.8%
為替レート 米ドル	150 円		140 円					
為替レート ユーロ	158 円		150 円					

2023年9月期 セグメント別業績予想

単位：百万円	2023年9月期 実績			2024年9月期 予想							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	売上高 増減額	売上高 増減率	売上高 構成比	営業 利益	営業利益 増減額	営業利益 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	30,054	72.1%	1,100	30,200	+ 146	+ 0.5%	71.4%	1,200	+ 100	+ 9.1%	31.6%
工業用機械	8,604	20.6%	2,000	9,000	+ 396	+ 4.6%	21.3%	2,190	+ 190	+ 9.5%	57.6%
その他の機械	2,574	6.2%	98	2,600	+ 26	+ 1.0%	6.2%	120	+ 22	+ 22.4%	3.2%
不動産賃貸他	475	1.1%	287	480	+ 5	+ 1.1%	1.1%	290	+ 3	+ 0.6%	7.6%
調整額 (セグメント間取引)	△ 281	—	△ 1,753	△ 280	—	—	—	△ 1,800	△ 47	—	—
合計	41,426	100.0%	1,732	42,000	+ 574	+ 1.4%	100.0%	2,000	+ 268	+ 15.7%	100.0%

セグメント別 営業利益予想

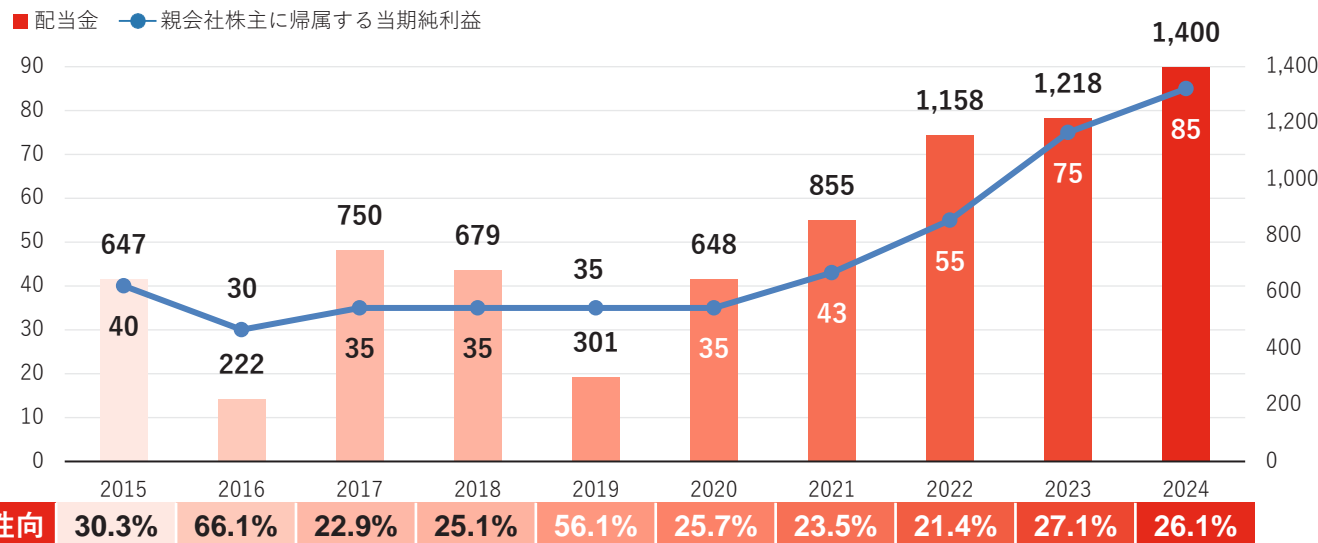


単位：百万円	2023 年 9 月期		2024 年 9 月期			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	547	31.6%	690	+ 143	+ 26.1%	34.5%
工業用機械	994	57.4%	1,100	+ 106	+ 10.7%	55.0%
その他の機械	49	2.8%	60	+ 11	+ 22.4%	3.0%
不動産賃貸他	143	8.2%	150	+ 7	+ 4.9%	7.5%

株主還元

- ・当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と位置づけ、将来の事業展開に必要な内部留保・各種投資、並びに業績見込みなどを勘案し、25%～30%の安定的な配当を継続することを基本方針としております。また、健全な経営の維持と将来の経営環境への対応を勘案しながら、株主還元を更に充実させていくことは重要と捉え、今後、配当性向の向上、自己株式の取得、株主優待の充実に取り組み、長期安定的な配当水準の向上に積極的に努めてまいります。

・来期の配当予想額は 1 株につき 85 円



ご参考－配当性向

配当金のみ	27.1%
株主優待を含めた配当性向	28.4%

ご参考－総還元性向

配当金額	330 百万円
株主優待総額	15 百万円
自己株式取得総額	263 百万円
合 計	609 百万円
総還元性向	50.0%

※ 2017年4月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、1株あたりの配当金については2010年に株式併合が行われたと仮定し、算定しております。



1

2023年9月期 業績概要

【2022年10月1日～2023年9月30日】

2

2024年9月期 業績予想

【2023年10月1日～2024年9月30日】

3

第8次中期経営計画

【2023年9月期～2027年9月期】

4

参考資料

会社概要 財務諸表 等

2030年 長期経営ビジョン

社会の課題

- 調達難 ・ 材料高騰
- 世界的食糧難 ・ 水不足
- ウイルス対策
- 人材 ・ 労働力不足
- 環境問題
- 国際政治 ・ 経済問題

2030年 長期経営ビジョン

- SDGsに繋がるESG経営の強化
- 社会貢献型企业として成長市場に進出

目標

- 食・水・環境分野の社会課題解決
- CO2排出量 50%削減
- 女性管理職 7名

成長市場

【食・農業・畜産市場】

農薬の適量散布：大型防除機 ・ ドローン ・ ウルトラファインバブル製品による課題解決
養殖 ・ 育苗：ウルトラファインバブル製品の投入

【環境市場】

消臭・節水・RO処理(水処理)・ミスト・気液混合・ウルトラファインバブルなどのポンプ技術による社会的課題の解決
環境ニーズ ・ リサイクルニーズへの対応

第8次中期経営計画（2023年9月期～2027年9月期）

◆ 中期経営計画コンセプト：「成長事業の創出」

ESG経営の強化

攻めのESG

食・水・環境市場
社会貢献

守りのESG

持続可能な体制づくり
リスク管理・投資・ガバナンス強化



第8次中期経営計画（2023年9月期～2027年9月期）

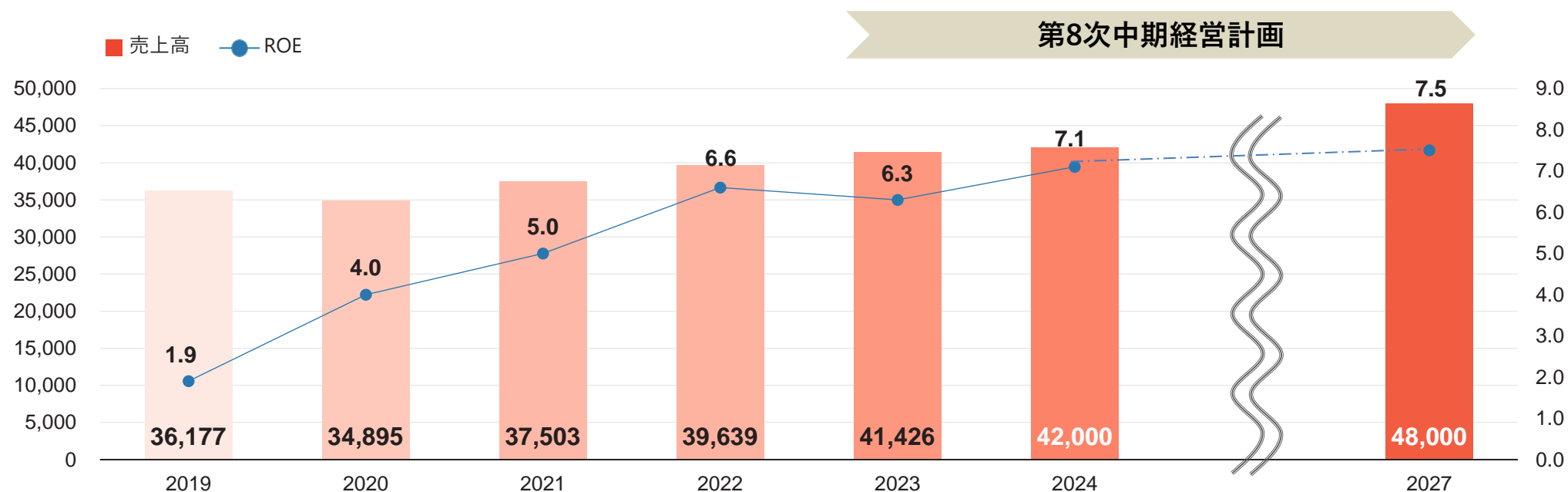
- ◆ MUFB技術の更なる進化とスマート農業化の促進
- ◆ 既存技術の進化
- ◆ 品質対策と製品安全の体制強化

- ◆ 国内の新市場開拓・既存市場の成長
- ◆ アジア市場へのリソース拡大
- ◆ 海外売上比率35%を目指す
- ◆ アフターマーケット強化

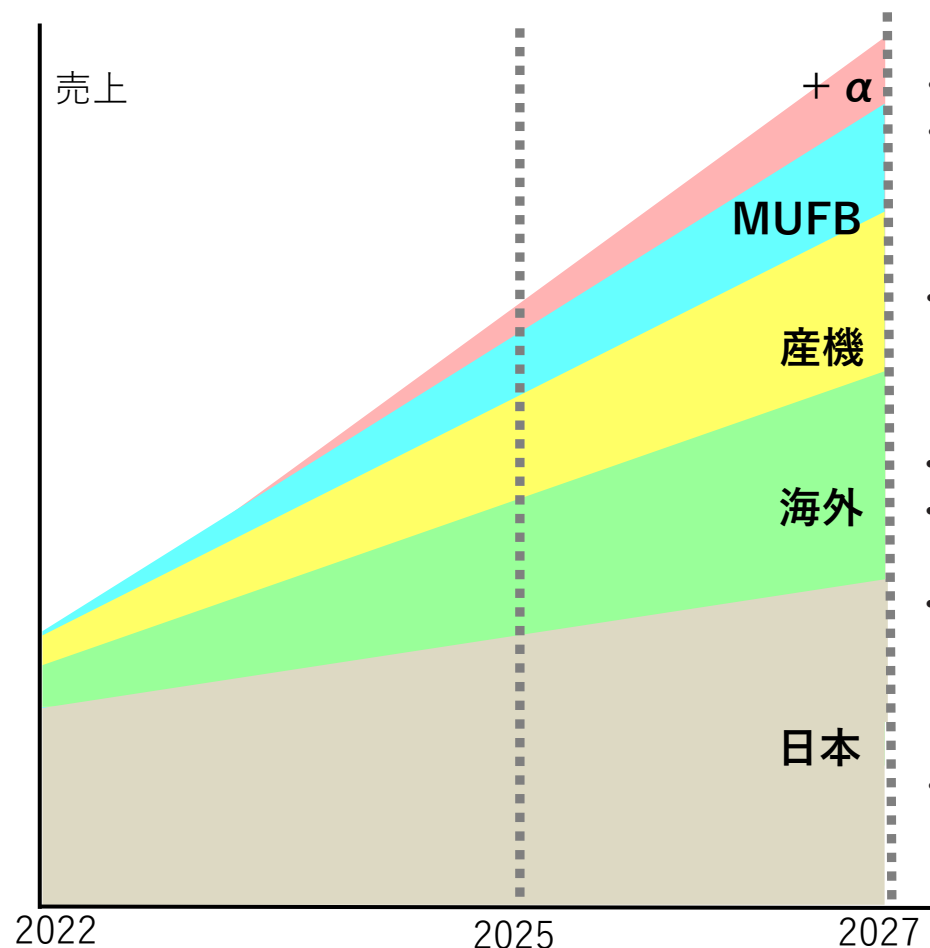


第8次中期経営計画の目標

単位：百万円	2023年9月期 実績	2024年9月期 目標値	2027年9月期 目標値
売上高	41,426	42,000	48,000
営業利益	1,732	2,000	2,800
ROE	6.3%	7.1%	7.5%



第8次中期経営計画 事業成長イメージ



【MUFB市場・+α】

- ・ ウルトラファインバブル製品を海外市場を含め新規の流通へ展開
- ・ 市場ニーズへスピード感を持った対応を行うため、自社開発の他、協業による新規市場参入や製品開発を目指す

【産業用機械市場】

- ・ 新用途向けのポンプ製品開発を進め、国内外ともに更なる事業拡大を図る

【海外市場】

- ・ アジア圏の農業機械市場に対して日本国内成功モデルを拡販する
- ・ タイ現地生産法人による製品開発・生産を積極的に展開、更なる進出を図る
- ・ 海外人材を活用し、より細かな市場開拓、マーケティングによる拡販を図る

【日本市場】

- ・ スマート農業機器、IoT・センサー技術製品の開発、新環境型エンジン搭載製品の開発、バッテリー製品ラインナップの拡充により市場ニーズへ対応

成長事業の創出：MUFB(ウルトラファインバブル)技術

ウルトラファインバブルとは…1 μ m 以下の微小な泡

- 抜群の洗浄能力
 - ① 洗剤なしでも洗濯ができる
 - ② 細菌・ウイルス・悪臭を破壊
- 生理活性効果
 - ① 植物や養殖魚の生育を促進

洗浄

- ・トイレの尿石が取れた
- ・臭いが減った
- ・除塩作業の効率が良くなった



水産業

- ・養殖魚が短期間で大きくなった
- ・鮮度が長く保たれるようになった



農業

- ・野菜のハリ、ツヤが良くなった
- ・果物の収穫量が増え甘さも増した



工業

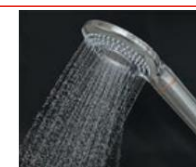
- ・洗浄力の向上により洗剤の量が減った
- ・金属加工で使う切削液が長持ちした



ファインバブル活用事例集を基に当社作成： https://k-rip.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/finebubble_ver4.pdf

家庭

- ・髪や肌がうるおった
- ・節水しながら洗うことができる
- ・排水溝のニオイがなくなった



成長事業の創出：スマート農業・環境型製品への取り組み

大型機械

- ・車両情報を衛星により把握し、圃場内において高精度な自動操舵を実現
- ・自動操舵機能を搭載した製品を市場へ投入

自動走行や無人走行などの自動化に向けた製品開発および IoT 技術や技術を応用した製品開発に取り組みます。



次の100年を創る
-All for the Future-

スプレーガイダンス / オートステアリング



ドローン

- ・防除機メーカーである当社による農業用に特化した扱いやすい機体を販売
- ・GPS信号を受信した自動制御飛行
- ・資格取得の教習からアフターサービスまでトータルサポート体制を構築



ドローンの普及および安全な操作に向けて取り組みます

環境型製品

- ・排気ガス規制に対応した新型エンジンを製品に搭載
- ・バッテリー製品のラインナップを拡充



環境負荷低減に向けた製品開発に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

サステナビリティへの取り組み

ESG経営、SDGsの達成に向けた取り組みをより一層推進するため、サステナビリティ専門家を招き、経営層を中心としたサステナビリティ委員会、将来を担う若手メンバーを中心としたサステナビリティ推進委員会にて、サステナビリティの方針、重要課題、KPIなどのテーマについて議論を進めております。

また、サステナビリティに関するレポート開示に向けた取り組みを進めております。

丸山グループのコアテクノロジーであるポンプとエンジン技術を最大限発揮し、食・水・環境の分野において、事業活動を通じたサステナビリティを実現し、グローバルに社会貢献できるよう活動を継続してまいります。

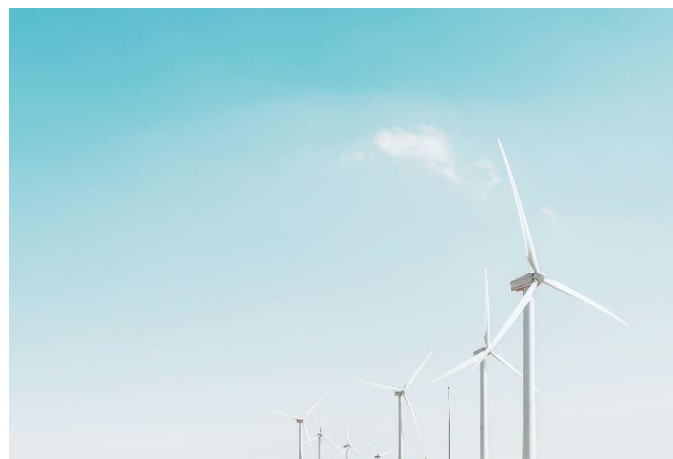


【丸山製作所グループのサステナビリティ】

【CO2排出量削減への取り組み】

当社グループで2番目に生産量の多い日本クライス株式会社（東金市）にて使用する電力を、再生可能エネルギー由来の電力へ変更いたしました。日本クライス株式会社から発生するCO2排出量808t-CO2のうち約99%を削減することができました。

全拠点において、CO2排出削減に向けた取り組みを進めてまいります。





1 2023年9月期 業績概要
【2022年10月1日～2023年9月30日】

2 2024年9月期 業績予想
【2023年10月1日～2024年9月30日】

3 第8次中期経営計画
【2023年9月期～2027年9月期】

4 参考資料
会社概要 財務諸表 等

貸借対照表

単位：百万円	2022年9月期 期末		2023年9月期 期末		増減額	主要因
	金額	構成比	金額	構成比		
総資産	34,459	100.0%	36,773	100.0%	+ 2,314	
流動資産	22,615	65.6%	22,515	62.1%	△ 99	現金及び預金の減少、電子記録債権の減少
固定資産	11,844	34.4%	14,218	39.2%	+ 1,871	建設仮勘定の増加 投資有価証券の増加 退職給付に係る資産の増加
流動負債	14,293	41.8%	15,001	41.4%	+ 572	短期借入金の増加
固定負債	2,466	7.2%	2,265	6.3%	△ 362	長期借入金の増加、退職給付に係る負債の減少
純資産	17,699	51.4%	19,466	53.7%	+ 1,516	

	2022年9月期 期末	2023年9月期 期末
自己資本比率	51.1%	52.7%
流動比率	158.2%	150.1%

(注) 1. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度の総資産の金額については、当該会計基準等を遡って適用した後の金額となっております。

キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2022年9月期 期末	2023年9月期 期末	増減額	変動要因
営業活動によるキャッシュフロー	2,418	△ 284	△ 2,702	売上債権の増加、仕入債務の減少
投資活動によるキャッシュフロー	△ 786	△ 2,018	△ 1,232	有形固定資産の取得による支出の増加
フリーキャッシュフロー	1,632	△ 2,258	△ 3,890	
財務活動によるキャッシュフロー	△ 1,114	1,619	+ 2,733	借入による収入が増加
現金及び現金同等物期末残高	4,658	4,003	+ 654	

会社概要

社 名	株式会社丸山製作所
代 表 者	代表取締役社長 内山 剛治
本 社	〒101-0047 東京都千代田区内神田3丁目4番15号
創 業・設 立	【創業】1895年 【設立】1937年11月
資 本 金	46億51百万円
売 上 高	414億26百万円（2023年9月期）
事 業 年 度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
上 場	東京証券取引所 スタンダード
従 業 員 数	【単体】611名 【連結】968名（2023年9月30日現在）
証 券 コ ー ド	6316
事 業 内 容	農林業用機械、工業用機械、消防機械の製造・販売
U R L	https://www.maruyama.co.jp/

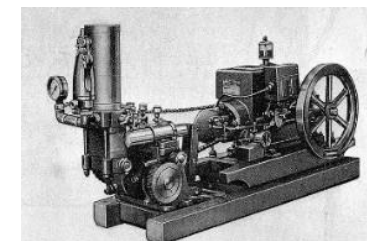


沿革

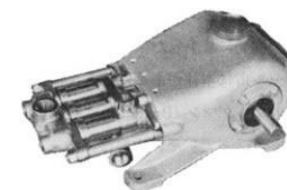
- 1895年 新潟県高田町にて丸山商会を創業（日本で初めて消火器を製造）
- 1918年 人力噴霧器の製造・販売
- 1935年 動力噴霧機の製造・販売
- 1937年 株式会社丸山製作所を設立
- 1961年 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1967年 工業用ポンプを開発
- 1977年 東京証券取引所市場第一部に指定
- 1990年 オリジナル2サイクルエンジン開発
- 2000年 新環境型2サイクルエンジンを開発
カリフォルニア州排ガス規制クリア
- 2004年 消火剤リサイクル…eco 消火器を販売
- 2012年 キャビン付ハイクリブームの開発
- 2016年 マルチローター（ドローン）の開発
- 2018年 ハイクリブーム発売 30 周年を迎える
- 2020年 創業 125 周年



丸山式消火器



横型三連式動力噴霧機



工業用ポンプ



2サイクルエンジン



キャビン付ハイクリブーム



マルチローター

当社の事業内容



農林業用機械分野

現在、丸山グループの基幹となっている事業です。
丸山独自のポンプを使用した防除機は、変化し続ける農家の皆様のニーズに対応すべく、多種多様な製品を製造・販売しております。
また、自社製の2サイクルエンジンを使用した刈払機、チェーンソーなども扱っています。

産業機械分野

現在、丸山製作所が力を入れている事業です。
高圧洗浄機や洗車機、ミスト装置などに使われる産業用の高圧ポンプの開発・製造を行っております。
また、畜舎内での病原菌の感染を防ぐ車両消毒装置など、環境衛生機器分野にも丸山製作所のポンプは活用されております。

防災関連分野

丸山製作所は日本で最初に消火器の製造・販売をした企業です。
多様化する社会の中で「環境とより安全な消火器で社会に貢献する」という理念のもと、消火薬剤のリサイクル化を進め、技術改良と製品開発により、さまざまなニーズに対応しております。

当社製品



当社の主力

消火器の製造から始まり、現在ではポンプ・エンジンが当社のコアテクノロジーです。

ポンプとエンジンは製品の動力源であり、製品の心臓部となるものです。様々な分野の製品で活用されています。



ポンプ & エンジン

当社の強み（製品）

当社の製品は様々な分野で高いシェアを獲得しています。



ポンプ製品の農業用防除機で
高いシェア



海外(北米)でのカーウォッシュ用
ポンプで高いシェア



エンジン製品の刈払機でホーム
センター流通において高いシェア

国内の販売・生産・サービス拠点

本社 東京都千代田区

生産拠点 4ヶ所
千葉県東金市（2ヶ所）
長野県須坂市
岡山県苫田郡

営業拠点 全国 25ヶ所
北海道（江別・帯広）／青森／岩手／秋田／
山形／宮城／福島／茨城／栃木／千葉／新潟／
長野／山梨／石川／愛知／静岡／大阪／広島／
岡山／香川／福岡／熊本／鹿児島／宮崎

物流拠点 3ヶ所
福島県／千葉県／岡山県

関係会社 日本クライス株式会社
マルヤマエクセル株式会社
西部丸山株式会社
丸山物流株式会社
双葉商事株式会社

千葉工場 （東京ドーム3個分の敷地）



物流拠点（福島）



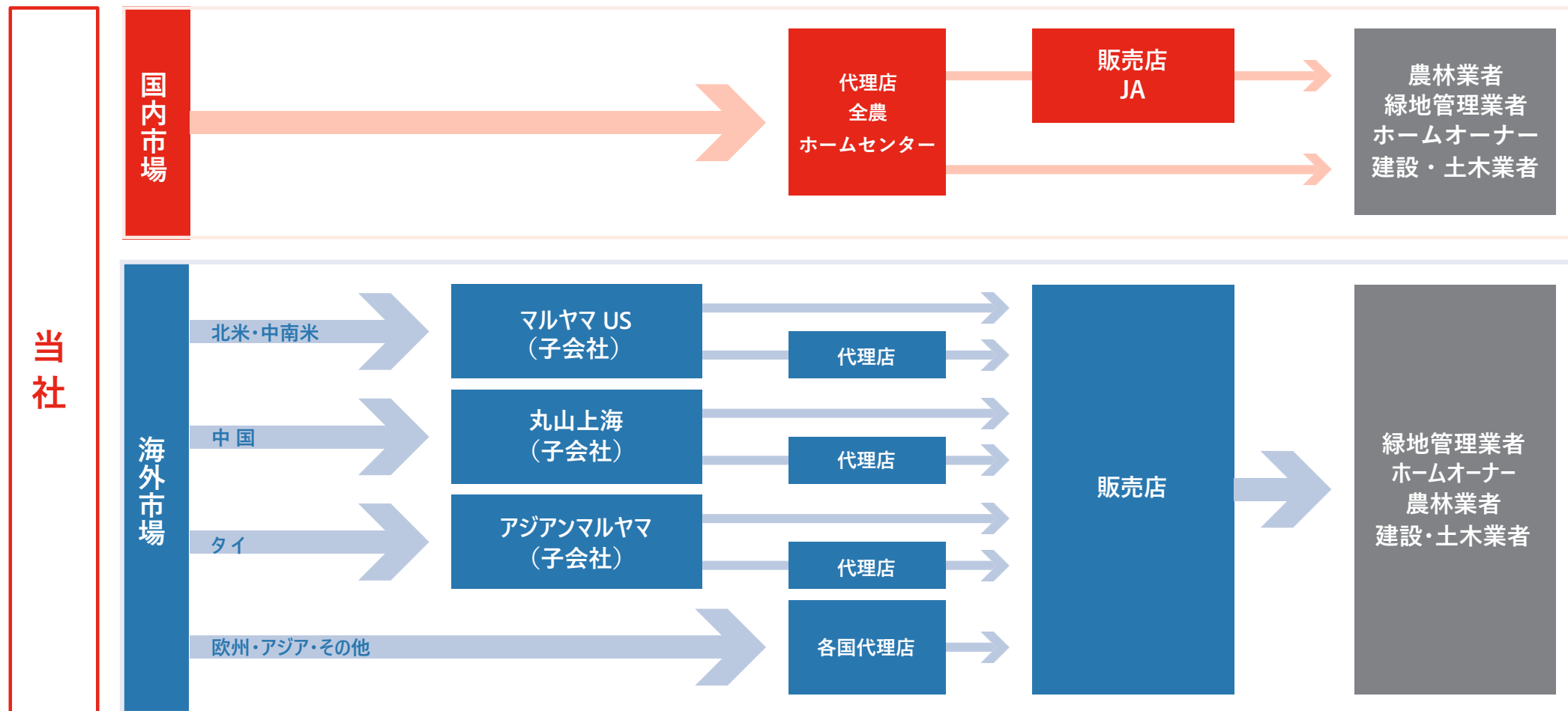
西部丸山（岡山）



海外の販売・生産拠点



主な販売経路



ポンプを使用した工業用製品

スパウターによる消臭作業



テーマパークで使われるミスト



高圧洗浄機



温度管理ミスト



カーウォッシャー



災害時緊急給水 RO



ポンプを使用した農業用製品

スタジアムの抗菌 抗ウイルスコーティング



牛舎での除菌作業



【畑・ビニールハウス】

背負動力噴霧機



【果樹園】

ステレオスプレーヤ



【田・畑】

ハイクリブーム



【中山間地】

ドローン



エンジンを使用した製品

刈払機



ブロワー



ヘッジトリマー



チェンソー



背負動力噴霧機



当社の強み（生産体制）

丸山グループは設計・製造からお客様のお手元に製品が届くまで、グループ内で一貫して行なっております。

設計



生産



商談



納品



アフターサービス



世界初の小型作業機用 2 ストローク水素エンジン、安定運転に成功

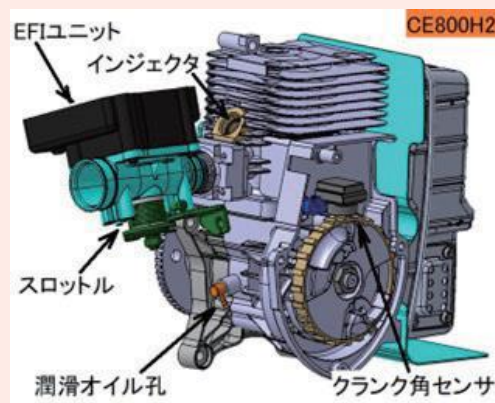
当社は、刈払機をはじめとするOPE※製品に搭載可能な小型 2 ストロークエンジンにおいて、世界初となる100%水素燃料での安定運転に成功しました。これにより排出ガスのクリーン化を実現し、さらなる環境保全とプロユースの作業性の両立とカーボンニュートラルに向けた水素利用研究に取り組んでまいります。

※OPE：園芸用・農業用・林業用などで用いる小型屋外作業機。Outdoor Power Equipmentの略称。

2 ストロークエンジンは 4 ストロークに比べシンプルな構造のため、人が手に持ったり背負ったりするための小型軽量化が可能で、また、排気弁や吸気弁といった動弁系を持たないため、メンテナンス性にも優れています。

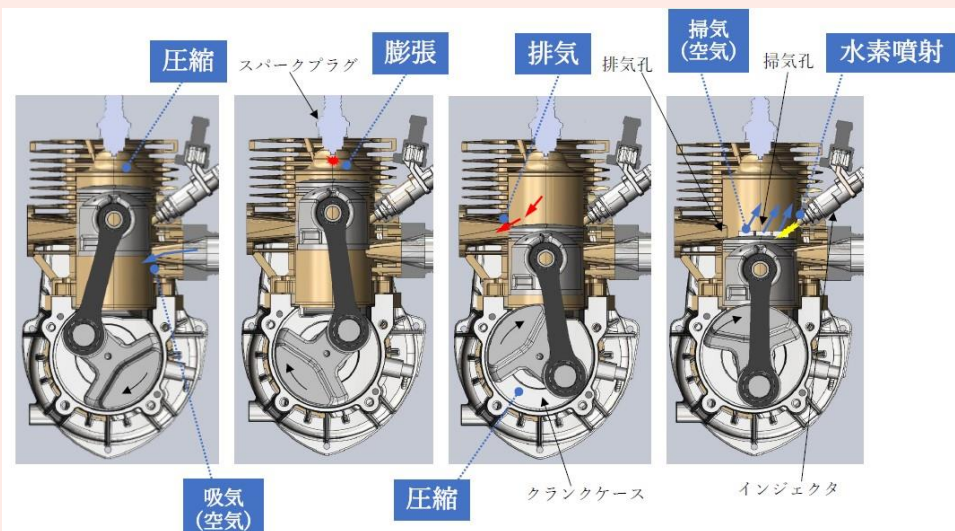


2 ストローク水素エンジン



エンジン構造図

現在は試験ベンチ上のエンジンで水素は外部供給設備での運転ですが、今後はカセットボンベ方式の採用と部品の小型化を図り、屋外作業が可能な試作機を作成予定です。



当社は今回開発した 2 ストローク水素エンジンをはじめ、今後も持続可能な社会の実現に向け、技術開発や製品・サービスの提供を進めてまいります。

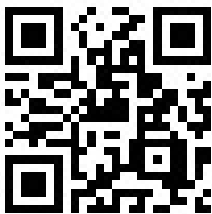
[habiller (アビリア)] テレビCMを放映



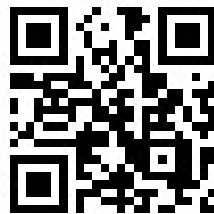
浴び心地を追求したウルトラファインバブルシャワーヘッド [habiller (アビリア)] のテレビCMを2023年10月1日から10月31日まで福岡県で放映いたしました。

[habiller (アビリア)] は、創業以来125年以上に亘り水流を研究し続けてきた当社が、農業や産業用にも活用される独自のウルトラファインバブル技術を注ぎ込み開発したシャワーヘッドです。

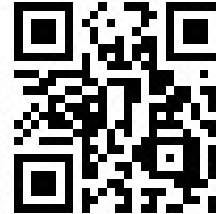
「浴びるならアビリア」をテーマに、ミストではないたっぷりの水量による浴び心地×ウルトラファインバブルによるうるおい持続、洗浄力、保温の3つの効果にフォーカスした3パターンを制作しました。CMはWEBでも公開中です。



浴びるならアビリア
歌う編



浴びるならアビリア
子供の汗編



浴びるならアビリア
ぽかぽか編



habiller(アビリア)
ウェブサイト

インド法人[MARUYAMA MFG INDIA PRIVATE LIMITED]を設立

インド市場に最適化された防除機の製造・販売及びサービス体制の確立を目的とした現地法人 [MARUYAMA MFG INDIA PRIVATE LIMITED] を設立し、2023年9月1日より営業を開始いたしました。

これまでもインドの企業と協業して、日本国内で実績のあるハイクリブームをインド向けに開発し、輸出を行ってまいりましたが、日本国内とは使用環境や圃場の条件も違うため、現地で発生した問題を都度、国内の設計部門にフィードバックすることで対応をしておりました。

このたび現地法人を設立することで、使用する環境や国民性、栽培作物に応じた使いやすい機械などの現地情報やお客様の声をダイレクトに反映させ、開発をスピーディーに行ってまいります。また、現地の工場に生産委託を行い、インド国内で部品の調達から製造までを実施することで、現地のコストに合った製品の提供を実現します。

現地にて設計・開発・耐久試験を実施し、作業状況に準じた、アフターサービスプランの提供を目指し、地元根付いた製品とサービスの展開によって、インド農業のさらなる発展を目指してまいります。

社名 : MARUYAMA MFG INDIA PRIVATE LIMITED
所在地 : 4th Floor, JMD Regent Arcade, DLF Phase 1, Sector-28, MG Road, DLF QE Dlf Qe Gurgaon HR 122002 IN
資本金 : 90,000,000ルピー
設立日 : 2023年6月26日
営業開始 : 2023年9月1日
事業内容 : インドでの農林業機械の製造・販売



Podcast [あかるい農業RADIO MARUYAMA] [note] の配信を開始

当社は広報活動の一環として、Podcast [あかるい農業RADIO MARUYAMA] 及び [note] の配信を開始いたしました。Podcastはインターネットで音声データを配信するサービスで、[あかるい農業RADIO MARUYAMA] は、農業の楽しさや当社の取り組みを発信する場として、週1回ペースで配信しております。

[note] は文章をメインとした記事コンテンツを発信・共有できるサービスで、[あかるい農業 RADIO MARUYAMA] の文字おこし記事などを掲載しております。どちらも無料でご利用いただけるサービスとなっております。ぜひご視聴をいただけますと幸いです。



Podcast [あかるい農業RADIO MARUYAMA]

[note] (MARUYAMA Official)

株主優待

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式に対する中長期的な投資魅力を高めることを目的として、株主優待制度を実施しております。

・ ESG活動の一環として本年度よりQUOカード 1 枚につき 10 円を社会貢献団体に寄付することとし、自然保護等に役立ててまいります。

【贈呈対象】

毎年9月30日の当社株主名簿に記載されており、100株以上の当社株式を1年以上継続保有されている株主様

継続保有期間	保有株数	株主優待
1年以上3年未満	100株以上	QUOカード1,000円分
3年以上5年未満	100株以上200株未満	QUOカード2,000円分
	200株以上	QUOカード2,500円分
5年以上7年未満	100株以上200株未満	QUOカード3,000円分
	200株以上	QUOカード4,000円分
7年以上	100株以上200株未満	QUOカード5,000円分
	200株以上	QUOカード6,000円分

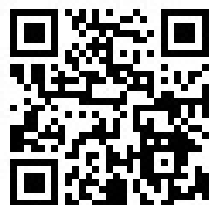
注) 継続保有期間の確認にあたっては、3月31日及び9月30日の株主名簿に連続して記載される同一の株主番号の回数並びに各回において100株以上の確認を基準といたします。

- ・ 1年以上3年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続3～6回記載
- ・ 3年以上5年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続7～10回記載
- ・ 5年以上7年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続11～14回記載
- ・ 7年以上：株主名簿に100株以上の保有を、連続15回以上記載

株主優待制度の一部変更（拡充）について

より多くの株主様に当社の事業へのご理解を深めていただくことを目的として、現在の株主優待制度に追加して、株主優待制度を一部変更（拡充）いたしました。

シャワーヘッド
habiller(アビリア)



habiller(アビリア)
楽天市場サイト

追加となる株主優待制度の概要

1) 対象となる株主様

2023年9月30日現在の当社株主名簿に記載されており、100株以上の当社株式を保有されている株主様を対象といたします。

2) 一部変更（拡充）内容

当社製品のウルトラファインバブルが発生するシャワーヘッド [habiller (アビリア)] の30%割引クーポンを配布いたします。クーポンは、当社の楽天市場ECサイト内で、対象となる株主様1名様につき1回限りお使いいただけます。また、クーポンの有効期限は2024年2月末までとなります。

3) 贈呈時期

2023年12月発送の定時株主総会決議ご通知に同封してご送付いたします。クーポンにつきましては、同封のリーフレットに専用のクーポンコードを記載する形で送付いたします。

一部変更（拡充）時期、他

本一部変更（拡充）は、2023年9月30日（現在基準日）の株主名簿に記載または記録された株主様への優待発送分より適用を開始いたします。また、株主優待制度においては、第三者への譲渡・転売目的でのご利用、株主様ご本人およびご家族以外のご利用は、固くお断りしております。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社丸山製作所
人事総務部

〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-4-15

TEL : 03-3252-2271

E-mail : ir-contact@maruyama.co.jp